

清政

せい せい

神道政治連盟京都府本部会報
平成22年6月11日発行(年2回発行)



Shinto Association of
Spiritual Leadership

御製
地震をのがれ
戸外に過ぎす人々に
雨降るさまを
見るは悲しき



捲土重来を期す
第22回参議院選挙に向けて
天皇陛下御即位20年 奉祝京都大会
沖繩慰霊祭・靖國神社参拝団報告
事務局からの活動報告
戦没英霊追悼慰霊祭・研修会

48

「捲土重来を期す」



神道政治連盟京都府本部
本部長 林 秀俊

昭和四十四年に神道政治連盟が発足、翌昭和四十五年より順次全国の地方本部が設立された。我が京都府本部は同年十一月に発足してより、本年は設立四十周年を迎える。先人たちが敗戦後精神的に荒廃した世の中を神道精神を以て再生しようと立ち上がったのが本連盟発足の由縁である。

以来、皇室の尊厳護持を活動の第一義として取り組み、昨年十二月十九日には、京都国際会議場で京都府民あげて天皇陛下御即位二十年奉祝の誠を賑々しく捧げることができたことは慶賀の至りである。

しかし、政局においては第二十二回参議院選挙に続き昨秋の第四十五回衆議院選挙において自民党は大敗を喫し、民主党に政権を引き渡すこととなった。神道政治連盟は、発足来同じ志を持つ保守本流の雄として政権を担う自民党と一体となり、神道精

神を礎とした国家再生に取り組んできた。「紀元節復活運動」に端を発し、爾来「劍璽御動座朝儀復古」「元号法制化運動」「皇室典範改悪阻止」「靖國神社に係る問題」「政教問題」「教育の正常化運動」等数多くの運動に成果を上げてきた。

安倍政権において、長年の懸案であった教育基本法が六十年ぶりに改正されたが日教組を配下に持つ民主党政権により改正教育基本法が骨抜きにされ、後戻りしつつあることは否めない事実である。道徳教育補助教材「心のノート」の廃止や、競争排除を理由に「全国学力テストの抽出方式への変更」国旗掲揚・国歌斉唱の励行などに反発し、教育委員会や校長の意向を無視する教員への指導に当たる「主幹教諭」の増員をゼロにするなど、日教組の利益につながる政策が次々と行われつつある。

第四十三回衆議院選挙に始まったマニフェスト選挙では、民主党は政権奪取を狙い一票を得るため、国民に耳触りのよい実行不可能な選挙公約を振り撒き、「子ども手当の支給」「農家戸別保障制度」「高速道路無料化」「米軍普天間基地は「最低でも県外移設だ」とぶち上げた。しかし公約が実現不可能になってくると、鳩山総理は「党の公約ではなく私自身の考えだ」と嘯く有様である。

我々は創立三十周年を機に、平成十三年二月より沖繩慰霊参拝団を結成し、当時の田中恆清本部長の思いである「英霊への感謝と慰霊の厚い祈りの継続」の信念のもと京都の塔での慰霊祭を毎年勤めている。その京都の塔がある嘉数高地からは、眼下に普天間飛行場を見渡すことができる。慰霊祭の最中にも耳をつんざく訓練ヘリの爆音に祭詞がかき消されることしばしば、この地に眠る英霊の安らかならんこ

とを祈ってきた。

普天間の環境は、住民にとって大変厳しい状況であることを我々自身も目の当たりにしてきた。しかし、沖繩の基地の役割は日本の安全保障にとって必要不可欠であることも、嘉手納基地等の視察により我々は学ぶことができた。基地の役割について認識不足とは二国の首相として喚かわしい限りである。

「マニフェストには謳われない」「外国人地方参政権付与法案」「選択

制夫婦別姓法案」等日本解体につながる法案も上程されかねない有様で、失敗すればまたも不勉強と取り繕うのであろうか。

今夏の参議院選挙において、民主党は政策も持ち合わせない芸能人等著名人を多数擁立する。しかし現役を続行すると断言するアスリートにとって議員年俸三四〇〇万円は魅力であるうが、政治とスポーツは決して両立できるものではない。政治を愚弄していると思えない。

い。神道政治連盟では、自民党山谷えり子氏を参議院比例代表として単独推薦候補としている。「神道の心は日本人の心」。国を守るため、輝く未来のため全力を尽くし捲土重来を期して頂きたい。

第二十二回参議院選挙に向けて

幹事長・中央本部選挙対策委員 梶 道嗣



昨年夏の衆議院総選挙では、民主党が大勝し、民主、社民、国民新党の三党による鳩山連立政権が誕生しました。民主党は日本教職員組合(日教組)などの労働組合を最大の支持母体とする政党です。「子ども手当」を始め高校授業料の無償化、高速道路の無料化など、「国民の生活が第一」と称して大衆の関心を得、

この付けが近い将来、必ず未来を担う若者たちに回ってくることには全く触れず、また差し迫った国家にとって大事な問題である外交や安全保障、それに経済の成長戦略などの対局を見据えようとし、ない現政権は、我が国の将来に大きな不安感を抱かせています。漸く彼らの正体が見えてきたようです。



おう こう は どう 横行霸道

第二十二回参議院議員通常選挙において我々は、民主党に単独過半数を取らせるわけにはいかないのです。もし今回の選挙においても

民主党が勝つことがあるとすれば、私たちが自民政権時代に必死になつて推進してきた皇室祭祀の伝統護持を始め、我が国の歴史・伝統を踏まえた天皇条項や安全保障、政教分離問題に関する事柄を盛り込んだ憲法改正のこと、「歴史と伝統の尊重」「徳性の涵養」「愛国心の育成」などが教育現場で実現されるよう教育の正常化に向けて努力してきた事項が非現実的なものになつてしまうのです。また二部の自民党国会議員をも手中に納め用意周到に準備された、靖國神社に替わる戦没者追悼のための新施設構想・夫婦別姓を柱とした民法改正とジェンダーフリー思想に基づく男女共同参画社会の推進、我が国の文化・伝統に極めて大きな影響を及ぼすおそれのある人権擁護法案、憲法違反となる外国

人地方参政権付与法案と安易に国籍取得を緩和するための国籍法の改定に関する法案等、歯止めを掛けてきた数々の悪法が数の力によつて次々ととも簡単に通つてしまふ可能性があるのです。

たい せい しつ こ 大声疾呼

第二十一回参院選において当本部は比例代表に有村治子氏、京都選挙区においては西田昌司氏を推薦、選挙運動を展開して参りました。結果、皆様方のお力添えにより両議席を獲得。現在は私たちの声を国政の場に確実に届けて下さり、マスコミの報道でもご周知の通り大変ご活躍を頂いております。前回の参院選時においては年金問題が勃発した直後の選挙であり自民党にはかなりの逆風が吹いていたわけですが、その中において議席を勝ち得たことは称賛に値することなかもしれません。しかしながら今回の選挙においては民主党の支持率が低迷する中においても、それに取って代わるはずの自

第四十五回衆議院選挙と同様の結果となる最悪の事態も予想せざるを得ません。要は前回の参院選より厳しい戦いをしなければならぬと考えて頂ければよいでしょう。前回の有村さんの選挙の折には京都において二八五の票を得ました。当時京都府下には神職が五四二人おられたのですが、単純計算で二人の神職が四人のご家族や総代、友人知人に投票を促したことになりませんが、京都府本部においては京都市の各区、各市町村別の得票数も把握しており、神職がいるにも拘わらず得票が全くなかった○票の地区が南部と北部に二カ所あったことが前回参院選での大きな反省点となつております。これは私たちの運動が地方にまで伝わらなかつたことを意味すると共に、参院選の比例代表制度を有権者によく理解してもらえなかつたことにも要因があると考えています。比例代表の投票用紙には政党名を、例えば「自民党」と書く方が殆どだと聞いています。この投票は無効にはなりません、最初に申しましたように自民党の中にも民主党同

様の政策に流される議員もいる現実があるなか、日本の文化伝統を守ってくれる議員のために投じた票が民主党寄りの自民党議員に有利に働いてしまふ結果となるおそれがあることを認識していただき、政党名ではなく応援する候補者個人の名前を記入してもらわねばなりません。

うん がい そう てん 雲外蒼天

今回の参院選は二人の神職が四人の投票を促せば済む前回の選挙と同様のことをしては議席の確保は出来ません。得票数○地区の得票回復を始め、府内得票数七六五○票を目標に、神職一人が十四人の家族・親戚・知人・総代・関係者に投票を促す運動を京都府下の隅々まで展開して参りたく存じます。また参院選挙における比例代表制度をよく認識して頂き、政党名ではなく必ず候補者の名前を書いて投票して頂くよう広く呼びかけて参りたく存じます。皆様方のご協力を懇願する次第です。

天皇陛下御即位二十年

奉祝京都大会

事務局長 中嶋茂博

昨年は今上陛下が御即位されまして二十年という慶賀の年にあたり、全国各地で奉祝行事が開催されました。当本部も清政四十七号で梶幹事長が報告した通り、関係団体と共に、各種の奉祝事業を実施致してまいりましたが、最終的には締めくくりとして志を同じくする京都府民挙げて奉祝大会を実施すべきと、神政連をはじめ各団体の事務局を預かる私ども神社庁へ多くの意見が寄せられました。

とくに日本会議・京都、神社関係の方々の「もつとも皇室とゆかりの深い京都ならではの奉祝行事の実施を」との思いは二人で、その熱意たるや並々ならぬものがあり、企画・運営する責任の重さをひしひしと感じておりました。

幾度も会議を重ね、日時は十二月十九日、場所は京都国際会議場大会議場に内定し、日本会議・京都を中心として、「天皇陛下御即位二十年京都奉祝委員会」を組織しました。特別顧問には山田啓二京都府知事、門川大作京都市長、立石義雄京都府商工会議所連合会会長、林田洋京都府議会議長、千玄室裏千家前家元各氏にご就任いただきました。また、本会会長には荒巻禎二京都府神社総代会会長、副会長には田中恆清京都府神社庁長、上村貞郎総本山御寺泉涌寺長老、田中安比呂日本会議・京都会長に

それぞれご就任いただきご指導を仰ぎながら準備を進めてまいりました。

国際会議場は千人収容の大変大きな会場です。神社関係者を始め、皇室ゆかりの仏教関係者、また宗教真光、念法眞教、立正佼成会、モラロジー協会など他宗教、団体のご協力もいただきながら広く府民の参加をお願いしました。

当日は大寒波により、府北部では数十センチの積雪との情報が入り、参加者の動静を心配いたしました。貸し切りバスや公共機関を利用いただくなど、府下各市町村首長をはじめ政府界各代表のご来駕もいただき、はじまつてみれば京都国際会議場の定員を超える二百余名もの参加者を得て会場は立ち見も出るなど、動員としては成功裏に開催させていただくことができました。



奉祝太鼓 北野天満宮神若会



閉式の辞 上村貞郎副会長



聖寿万歳 西田昌司参議院議員



式辞 荒巻禎一会長



開式の辞 田中恆清副会長



司会
藤井康生NHK
アナウンサー



千玄室裏千家前家元



林田洋京都府議会議長



谷垣禎一自由民主党総裁



山田啓二京都府知事

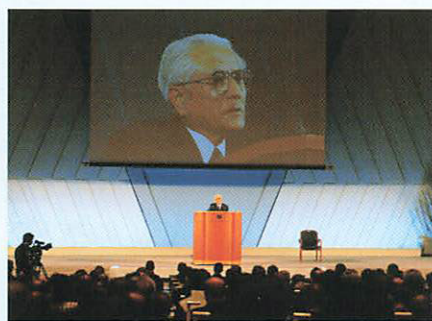
奉祝の辞

松谷茂京都府立植物園園長には「両陛下に拝して」と題し、昨年十二月二十日に御視察あそばされた折のエピソードをお話しいただきました。



御製
人々の幸願いつつ国の内
めぐりきたりて
十五年経つ
我が妹が丹後の海に放らゆく
あかあまだいの
色さやかなり

神心流尚道館
安倍秀風家元による御製朗詠



第二部は、井関英男前宮内庁掌典長に「宮中祭祀について」と題し記念講演をいただきました。井関氏は先帝陛下侍従、東宮侍従、掌典長を歴任され、陛下の御側近くでお感じになられた、祭り主としての厳肅なお姿、また周囲に大変気を配られる平素のお姿など、こもこもお話を賜りました。

第2部



舞台清め 吉田神社剣鉾保存会

最後に閉会の辞として田中安比呂副会長より挨拶がありました。田中副会長は十二月十八日陛下が御入浴遊ばされ御所に参内した折に、今回の奉祝大会開催の旨を陛下に奏上申し上げたところ「どうもありがとう」との御言葉を賜わったと、思いがけない報告を語られ、本大会の開



第三部
第三部では陸上自衛隊中部方面音楽隊による奉祝演奏が行われました。

催が畏れ多いことながら陛下の御耳に届いているとの感動を胸に、参加者全員で日の丸の小旗を打ち振り、再度聖寿万歳を高らかに三唱し、すべての日程を無事に終えることができました。
本大会開催に当たっては、参画参加いただいた関係者の皆様が、御即位二十年を御祝いする心を正に二つにしてこそ開催出来得た大会であったと思います。素晴らしい奉祝の催しに導いていただきましたことを心より感謝申し上げます。



沖縄・京都の塔慰霊参拝

平安神宮権禰宣 神尾和俊



去る、平成二十二年十二月十日より二

日間、神政連京都府本部恒例事業の沖縄「京都の塔」慰霊参拝が実施され、林本部長をはじめ十八名が参加した。私自身二度目の参加であったが、慰霊祭の奉仕、行程が過酷という点で前回とは大きな違いがあった。

初日、参加者は伊丹空港に集合、配られたお弁当を食し「路沖繩へ。二時過ぎに那覇空港に到着し、その足で嘉数高台公園へ向かった。私を含め祭員は揺れるバスの中で、車酔いと闘いながら汗だくになって白衣姿に。カーテンは閉められ、沖縄の町を望むことは暫しの我慢となった。

程なく「京都の塔」に到着、慰霊祭が厳肅に斎行された。斎主の花房副本部長の祭詞奏上の後、全員で「海ゆかば」を合唱、参列者は英霊に慰霊と報恩の誠を捧げ拜礼した。

慰霊祭の後、一行は佐喜眞美術館を見学した。この美術館は平成四年に普天間基地の一部が返還された場所にあ

り、屋上は沖縄慰霊の日(六月二十三日)の夕日が正面から差し込むようにつけられていた。参加者は基地を眺めながら、二十万人に及ぶ沖縄戦犠牲者へ哀悼の祈りを捧げると共に、我が国の平和と繁栄が、尊い犠牲の上に築かれていることを決して忘れてはならないと誓った。

二日目は、波上宮を参拝した後、世界文化遺産の首里城を見学、一時過ぎの飛行機で南国沖縄を後にした。

師走、過密な行程にも関わらず参加された方々の厚き思いに敬意を表すると共に、吉田副本部長の「参加者がたとえ一人になっても、必ず継続しなければならぬ。」という言葉に、この慰霊参拝の重みを痛感した。



靖国神社京都府出身戦没者慰霊祭

貴船神社権禰宣 鳥居南圭吾

去る四月七日、神道政治連盟京都府本部主催の「靖国神社京都府出身戦没者慰霊祭」に自身としては初めて参列させていただきました。今回は園児を含む総勢十八名が参列しました。

小雨が降り続くまだ肌寒い日でしたが、九段は桜の開花により大勢の方で賑わい、桜を背景に「Vサイン」をしている人達の横を通り、私も久しぶりの東京に浮き足立った気持ちを抑えられず、その風景に気をとられながら靖国神社に向かいました。

慰霊祭まで少し時間があるというので遊就館に立ち寄り、暫く英霊となられた方達の遺品や資料を拝見していると、普段心の奥底に仕舞われている物が



呼び覚まされる気持ちになりました。慰霊祭が厳かで、他の場所では到底感じ得ない雰囲気の中執り行われ、その中で黙祷していると、家族や国や故郷を守るために英霊とられた御霊の前に、我々「遺志を継ぐ者」として、今何をすべきなのかを考えなくてはならないと改めて感じました。

翌日参加者は、陸上自衛隊広報センターりつくらんランドの見学や川越の菓子屋横丁散策の後、皇居を遥拝し帰京しました。



あしあと

事務局からの活動報告(平成二十二年十二月〜平成二十二年六月)

12月 師走

- 平成21年
12月 11日：●関係団体代表者懇話会 林本部長出席(於 京都府神社会館)
 "：●洛西支部神宮大麻曆頒布始祭並びに総代会総会 林本部長出席(於 松尾大社)
 12月 8日：●京都の鎖を語る女性の会例会 38名(於 いもぼう平野家本店)
 12月10日～11日：●神繩京都の塔慰霊参拝団結成 18名(於 神繩県)
 12月15日：●第五回天皇陛下御即位二十年奉祝京都実行委員会 36名(於 北野天満宮)
 "：●京都府本部役員会 林本部長以下関係者18名(於 北野天満宮)
 12月19日：●天皇陛下御即位二十年奉祝京都大会 2100名(於 京都国際会館)
 12月23日：●天長節奉祝日本会議・京都式典 90名(於 リーガロイヤルホテル京都)

1月 睦月

- 平成22年
1月14日：●参議院議員佐藤正久氏新春の集い 林本部長出席(於 京都全日空ホテル)
 1月22日：●京都府神社庁新年神職総会関係団体助成金交付式 林本部長出席(於 京都府神社会館)
 "：●神政連政策委員会 林本部長出席(於 神社本庁)
 1月27日：●神政連役員会 林本部長出席(於 神社本庁)
 1月28日：●神政連臨時本部長会 林本部長出席(於 神社本庁)

2月 如月

- 2月 5日：●参議院議員山谷えり子懇話会 8名(於 北野天満宮)
 2月11日：●建国記念の日奉祝京都式典 関係者出席(於 京都府神社会館)
 2月18日：●京都府神社庁祈年祭 林本部長参列(於 京都府神社会館神殿)
 2月26日：●神政連京都府本部三役会 林本部長以下8名出席(於 賀茂別雷神社)
 "：●日本会議都道府県本部実務者会議 林本部長以下6名出席(於 北野天満宮)

3月 弥生

- 3月 2日：●神道政治連盟第8回時局対策連絡会議 後藤参与・神尾副幹事長出席(於 自由民主党本部)
 3月 9日：●京都みやこライオンズクラブ35周年例会卓話 林本部長出席(於 ホテルモントレ京都)
 3月19日：●京都府本部役員会 林本部長以下18名出席(於 京都ガーデンパレス)
 "：●西田昌司出版パーティー 5名(於 全日空ホテル)
 3月23日：●神政連政策委員会 林本部長出席(於 神社本庁)
 3月24日：●山田啓二出陣式
 3月24日：●神政連京都府本部臨時代議員会 52名(於 京都府神社会館)
 3月25日～28日：●天皇皇后両陛下御奉送迎(於 京都府内各所)
 3月27日：●船井支部神社総代会総会 林本部長出席(於 京丹波町中央公民館)
 3月30日：●京都府神社総代会総会 林本部長出席(於 ホテルグランヴィア京都)

4月 卯月

- 4月7日～8日：●靖國神社参拝 京都府出身戦没者慰霊祭 林本部長以下19名(於 靖國神社)
 4月13日：●山谷えり子出版パーティー 林本部長・梶幹事長出席(於 グランドプリンス赤坂)
 4月14日：●神政連役員会・選挙対策委員会 林本部長・梶幹事長出席(於 神社本庁)
 4月17日：●京都府神社庁例祭(於 京都府神社会館)
 "：●神社庁並び総代会関係者合同会議(於 京都府神社会館)
 4月21日：●京都府本部新旧役員会 林本部長以下16名出席(於 京都プライムホテル)
 4月27日：●英霊にこたえる会事務担当者会議 中嶋事務局長出席(於 九段会館)
 "：●霊簿からの氏名抹消等請求訴訟第4回口頭弁論 中村局長以下2名出席
 (於 大阪高等裁判所及び大阪府神社庁)

5月 草月

- 5月 9日：●京都府神社洛東支部総代会30周年記念総会 林本部長出席(於 プライムシティ山科)
 5月18日：●神政連近畿地区協議会 林本部長・梶幹事長・中嶋事務局長出席(於 琵琶湖ホテル)
 5月24日：●京都府本部綱紀委員会(於 京都府神社会館)
 "：●京都府本部役員会(於 京都府神社会館)

6月 水無月

- 6月 2日：●京都府本部選挙対策委員会(於 京都府神社会館)
 6月 7日：●神道政治連盟役員会 林本部長出席(於 神社本庁)
 "：●神道政治連盟本部長事務局長連絡会 林本部長・中嶋事務局長出席(於 神社本庁)
 "：●神道政治連盟結成40周年記念式典 林本部長出席(於 ホテルニューオオタニ)
 "：●神道政治連盟・神道政治連盟国会議員懇話会合同祝賀会 林本部長以下4名出席(於 ホテルニューオオタニ)
 6月 8日：●神道政治連盟中央委員会 林本部長・吉田副本部長・梶幹事長・中嶋事務局長出席(於 神社本庁)
 6月11日：●京都府本部財務委員会(於 京都センチュリーホテル)
 "：●京都府本部役員会(於 京都センチュリーホテル)
 "：●第24回会員大会開催(於 リーガロイヤルホテル京都)
 "：●清政第48号発行

御製を拜して。

地震をのがれ
 戸外に過ごす人々に
 雨降るさまを
 見るは悲しき

今年、世界中において次々と発生する大地震の報道に息を呑みました。二月十二日のハイチ大地震ではM七、約二十万人もの犠牲者が出ました。二月二十七日にはチリでM八・八の超大地震が発生、日本にも津波が来襲するかもしれないと厳戒態勢が敷かれたことは記憶に新しいところです。

我が国でも、平成七年の阪神淡路大震災をはじめ、数多くの大地震が発生していますが、地震に限らず国民が被災たあらゆる自然災害において、両陛下はその度に深く心を痛められ、被災した国民を見舞いたわるその御心を歌にお詠み下さっております。

表題の歌は、阪神淡路大震災の折に詠まれた御製です。地震によって住まいを失った被災者に対する深い慈しみの御心に、唯ただ心打たれます。他のお国の元首がどの様に国民に心寄せられ表現されるのかは残念ながら不案内ですが、両陛下の詠まれる和歌という素晴らしい短文には到底及ぶまいといつもながら誇らしく思うのであります。(史)

編集室だより

累卵之危

去る、4月21日鳩山総理大臣と谷垣自民党総裁との党首討論で「私は愚かな総理かもしれない」との自虐答弁があった。「戦を賭せるのか」との質問にも明言をさけた。わが国の総理大臣が“愚か”とは。

政権交代を機に、民主党は外国人地方参政権付与法案をはじめ、国の根幹に関わる悪法を次々と通そうとしている。これは何としても阻止しなければならない。夏の参議院選挙で“ねじれ”を作ることが我々の最大の課題である。

迷走を続ける今の鳩山政権は政策が危険であり、思想が相反することは別問題として、自国の総理が「私は愚かな総理」と発言したこと自体、一人の日本国民として落胆と悲しみが込み上げる。一死報国の精神を忘れた総理にこの国の未来は託せない。(神)

●ご意見ご感想をお待ちしています。投稿はご氏名ご連絡先を明記の上、FAXか電子メールでお願いします。
宛先/神道政治連盟京都府本部「清政」編集室
 ファックス/075-863-6664
 電子メール/
info@kyoto-jinjacho.or.jp



このロゴマークは、わたくしたちの会名である「神道政治連盟」の英訳の頭文字SAS (Shinto Association of Spiritual Leadership) と日本古来の装飾品である勾玉(マガタマ)をデザイン化したものです。

清政 第48号

発行日 平成22年6月11日(金)
 発行所 神道政治連盟京都府本部
 〒616-0022 京都市西京区
 嵐山朝月町6-8
 電話 075-863-6677

神政連ホームページをぜひご覧ください。
<http://www.sinseiren.org>

編集協力 (株)ハルプロモーション

京都府戦没英霊追悼慰霊祭
 国民精神昂揚運動合同研修会

●とき：平成二十一年十月二十六日 ●場所：京都カールテンパレスホテル

今年で第六回を数える「京都府戦没英霊追悼慰霊祭」、あわせて「国民精神昂揚運動合同研修会」が、神社庁関係者をはじめ英霊にこたえる会、遺族会、軍慰連盟等の関係各位、また国会・府議会各議員等、総勢約二百〇名の参加を得て開催された。

祭典は、齋主を竹内幸平副本部長がつとめ厳かに斎行された。就中齋主の朗々と唱える重厚謹厳なる祭詞は、毎度ながら参加する者の琴線にふれる素晴らしい祭詞であった。我が国は戦争に敗れたとはいえども、今こうして国際社会の中で先進国の一員として世界をリードする国に成長し得たのも、国家のために戦い散った英霊が築いた礎のお蔭と感謝し、いよいよもっとよき因づくりをせねばと、決意を新たにすの好機となった。

厳粛のうちに祭儀は無事終了し、引き続き講義研修会に移った。本年の講師は、長年に亘り政教関係の研究に携わられ



● 國學院大學教授 大原 康男 先生

りわけ靖國神社問題については第一人者である、國學院大學教授 大原康男先生をお招きして、「靖國神社と戦没者追悼施設」と題した講演を頂戴した。

講演では、現政権では鳩山首相自身も参拝自粛を促すなど、政教交代により以前にも増して国家と靖國神社との距離

が遠ざかりつつある。相変わらずその理由は、戦犯が合祀されているから参拝するなどの周辺諸国の声に萎縮してしまっているからだ。戦犯が祀られることが問題ならば、政府主催の戦没慰霊祭に戦犯の家族も招くのは何故なのか。陛下をはじめ閣僚たちが頭を垂れるその先の霊壓には、当然ながらA・B級戦犯と誹りを受ける英霊も鎮まつている。これは矛盾だ。戦犯が祀られているからと言って、代替追悼施設をつくるところで、誰がそのようなところに参るのだろうか。現に千鳥ヶ淵には桜の時期以外にはほとんど人が参っていないではないか。それに引き替え、隣の靖國神社は常に大勢の参拝者でにぎわっている。誰もがわだかまもなく祈りを捧げられる施設をと言う方が、靖國に祀られていると信じる遺族に新たなわだかまりは生じないのか。英霊との約束を反故することにわだかまりはないのか。中韓の内政干渉などには屈せず、国の代表が毅然かつ心静かに祈りを捧げられる靖國神社にしていかなければならない。と語られた。

講演を聴いた参加者は二様に現政権の危うさを改めて認識し、刻も早い真の保守政権の復活を願わずにはいられなかった。(堀川宏史)



(今号「せいせい書評」はお休みします。)